

東北雑草研究会設立 10 周年を迎えて

会長 千葉和夫*

On the 10th anniversary of the Weed Science Society of Tohoku, Japan

Kazuo Chiba*

平成 20 年 8 月 5 日に東北雑草研究会設立 10 周年の記念大会が福島市（会場 福島テルサ）において開催されました。本研究会設立のきっかけは、平成 8～9 年度の日本雑草学会幹事会および評議員会において、石塚会長が地域活動強化の方針を打ち出したことでもあります。当時、北海道や東海地域とともに未だ地域研究会が組織されていなかった東北地域では、評議員であった伊藤一幸氏（東北農試）と吉岡俊人氏（東北大）の両名がその具体化に着手されました。さらに、転出した伊藤一幸氏の後を引き継いだ渡邊寛明氏の熱意と積極的な活動によって、設立に向けてはずみがつくことになりました。

その頃、東北地域では東北農業試験研究推進会議主催による雑草制御研究会が毎年開催されておりましたが、この研究会は基本的に国公立試験研究機関による研究戦略会議であり、参集範囲に制限があったこと、また水稻部会が中心となっていたため水稻作雑草防除に偏った内容・テーマにせざるを得ないという問題点もありました。そこで、この研究会を誰でもが参加できる開かれた地域研究会へ移行・発展させていくことは困難と判断し、平成 11 年に国公立農業試験研究機関、東北地域内の大学、日本植物調節剤研究協会、農業工業会、民間の雑草研究者等の有志からなる新たな組織を立ち上げ、同年 8 月に記念すべき第 1 回目の大会「東北雑草研究会 99」が宮城県仙台市で開催されたわけでありました。また、翌年の平成 12 年 8 月には岩手県盛岡市において「東北雑草研究会 2000」が開催されましたが、両研究会ともに 100 名程度の参加者があったこと、参加者を対象としたアンケートで研究会の継続、また日本雑草学会との連携をより強化すべき等との意見が多かったことを受けて、平成 12 年 12 月に日本雑草学会東北支部会としての規約案をまとめ、平成 13 年 4 月の日本雑草学会評議員会および総会で本研究会がその東北支部会として承認されるに至りまし

た（日本雑草学会の東北支部会として位置付けられた後も、それまで使用していた「東北雑草研究会」を引き続き地域研究会の名称とすることも認められた）。

同時に、年 1 回刊行される会報「東北の雑草 英名 Tohoku Weed Journal」には速報性の高い未発表のものは「報文」として、すでに発表された複数の成果を技術情報としてまとめたものは「技術情報」あるいは「総説」として、さらに投稿があった場合には「研究資料」も掲載することなどを内容とする投稿規程も整備されました。本会報は創刊以来これまで 9 号刊行されておりますが、平均して 7 報程度の論文が掲載されており、地域内における研究者相互の情報交換に少なからず役立っているのは嬉しいかぎりであります。

一方、これまで開催されてきた研究会の内容は第 1 回目の大会を除いて、①雑草防除技術情報交換会、②講演会、③研究発表会の 3 つから構成されており、本研究会の特徴ともなっております。①では当該年度の除草剤出荷動向とその他の各種情報提供、②は 1 つの大テーマに関連した複数の課題（例えば「東北地域の問題となっている外来雑草」のテーマの下に、「草地における外来雑草の動向」、「雑草化したコンフリーの繁殖生態と防除法」、「ヒルガオ類の栄養繁殖様式」等）であり、③は会員による最新の研究成果の発表であります。

かつて、第 3 回目の大会において記念講演をしていただいた萩本宏氏（元日本雑草学会副会長、元武田薬品取締役）は、近年の雑草学会で農業の現場での雑草管理に関する報告が少なくなったことを憂え、大学（雑草管理の基礎理論の確立）、試験研究機関（雑草管理の方法論の開拓）、企業（雑草管理の具体的手段の提供）が三者一体となって歩みを進めていただきたいと述べておられました。この言は現場に密着した活動を求められる地域研究会においては、本学会以上にゆるがせにできないこ

* 秋田県立大学 〒010-0444 秋田県立大学生物資源科学部 アグリビジネス学科

Department of Agribusiness, Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita 010-0444, Japan

とであり、ましてや今後もわが国の最も重要な食料供給基地としての役割を担っていく東北地域にある者にとって忘れてはならない指針といえます。

これから 21 世紀の社会では農業の役割の重要性が一層高まると思われます。私どもの研究会がさらなる貢献をしていくためにも、皆様には引き続きご協力・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。